心をひとつに

秋田県人会 九州・沖縄

題字：ばんば三郎

福岡（小郡）から第二の地元「秋田」で竿燈を継ぐ



秋田県人会の皆さん、はじめまして。世継貴弘（よつぎ たかひろ）と申します。こちらをお読みの方は秋田県出身で現在は九州にお住いの方が多いかと存じますが、私は皆さんとは逆に福岡県小郡市出身で現在は秋田市に居住しています。秋田の大学への進学をきっかけに現在も秋田で仕事をしており、今年で秋田に住んで10年目となります。今回は、僭越ながら寄稿の機会を頂きましたので簡単に自己紹介をさせていただきます。

私が秋田に来たのは2012年のことですが、秋田の大学に行きたい明確な理由があったわけではなく好奇心によるところが大きかったように思います。地元九州や首都圏の大学という選択肢もあったなか、あえて地元から離れて秋田という新しい土地に行ってみようという気持ちがあったのを記憶しています。

父が技術者だったこともあり、私は幼い頃よりパソコンやプログラミングに触れて育ちました。そして、高校生になる頃には小さなものでも良いので自分でサービスを作りたいという思いが強くなりました。大学に入ってその思いはより強くなり、就職せずに自分で仕事をしたいというわがままな思いから大学を中退しています。それから紆余曲折はありましたが、周りの助けや支えもあり、現在ようやく秋田で会社として事業を始めることができました。ようやくスタートラインに立てたという気持ちでこれから頑張ってまいります。

話は変わりますが、私は大学在学時に「秋田竿燈まつり」に出会い、大学の竿燈会として祭りに参加しました。当初は興味本位で参加した竿燈でしたが、くり返し参加する中で続けたいという思いが強くなり、現在は町内の竿燈会に所属して祭りに参加しています。祭り本番以外にも年間を通した準備作業や県内外のさまざまな演技にも参加し、いまでは竿燈が日常の一部のように感じています。竿燈を通して出会った人々は、県外出身で知り合いが少ない私にとって大きな繋がりとなりました。

2018年には「秋田竿燈まつりin武雄」にも参加し、九州は佐賀・武雄でも竿燈の演技を行いました。いつか地元福岡でも竿燈演技を行う機会があればぜひ参加したいと思っています。

秋田での生活も10年目となり、私にとって秋田は「知らない土地」から「第二の地元」となりました。周りから「何が好きで秋田に住んでいるのか」と聞かれることがありますが、私は「秋田が好き」という言葉は「外から秋田に来た人」らしさを感じてあまり好きではありません。私にとって秋田が第二の地元であり、それが私が現在も秋田で生活を続ける理由だと思っています。残念ながら昨年と今年は新型コロナウイルスの影響で竿燈は中止となってしまいました。秋田には竿燈以外にも多くの祭りや伝統行事がありますが、夏の風物詩として地元の行事を思い出す方もいらっしゃるのではないでしょうか。

竿燈には無病息災の願いが込められています。コロナ禍が収束して前向きな日常が訪れることを願うとともに、皆さまも健やかにお過ごしいただけるようお祈りしております。

新秋田創造プラン意見交換会

10月27日、18時から、秋田県企画振興部総合政策課の主催で「新秋田創造プラン意見交換会」がオンラインで開催されました。

首都圏の秋田県人で作る3団体から5名、近畿や京都、福岡・秋田県人会からは五十嵐順悦さんが出席し、合計で8名の参加でした。いずれも50歳代以下の世代が中心でした。

参加者には予め「新秋田創造プラン骨子案」や「データで見る秋田県の現状」などの資料が送付され、参加者はそれらを確認した上で意見を述べました。

五十嵐さんは、「県外から見ると、リンゴは青森県、サクランボは山形県、米は新潟県というイメージが ある。これらは秋田県でもある程度の収穫量があるが、全国的にはその存在を知られていない印象があるのでブランディングの強化が必要だと思う。今後デビューするサキホコ レについても、ブランディングを始めとしたマーケティングを強化していくべきである。」

「秋田県は農業も基幹産業の一つであると思うので、農産物に機能性を付加する機能性表示食品化への取組もブランディングの一つの方法になるのではないか。」

「所得を上げていくためには、民間企業の活力を高める必要があるので産官学連携による取組の更なる推進も重要と考える。」などと発言されました。

およそ、2時間に亘る会議は、各県人会からの提言に総合政策課の橋本秀樹課長が答える形で進められ、今後の秋田県政に生かされると言う事です。

東海林太郎直立不動像、支援者銘板

秋田市千秋公園前の秋田市文化創造館前に建立された東海林太郎直立不動像に支援者の銘板が作られ、8月中旬に歌碑の裏側に張り付ける作業が終わったと9月9日に報告が届きました。

全国から法人119と個人987人。当初目標の300万円の2倍近い600万円の支援が寄せられました。この内、九州からは佐嘉神社や佐賀県の山口祥義知事、シンジー（麻生進さん）など計5名の名前が刻まれました。銘板の最後の文面です。天国の東海林太郎さんから次のような「メッセージ？！」が届いております。



「♪思いがけず、私の直立不動像を、よくぞ作ってくださいました。親友の憲ちゃん（斎藤憲三・TDK創立者）や俊ちゃん（瀬尾俊三・雪印乳業、中興の祖）の名前まで書いて頂いて嬉しい限りです。人生、健康と友がきが大切。新型コロナで日本も大変ですが、日本人の律義さとふるさと愛でコロナに打ち勝つことを信じております」。なお、東海林太郎直立不動像・建立委員会は、今後、東海林太郎直立不動像・保存会として活動を続けるそうです。

シンジー傘寿のコンサート





福岡・秋田県人会会員のシンジー（麻生進さん）は、1941年3月30日生まれの傘寿80歳。佐賀県の生まれで、現在は福岡市東区に住む。東海林太郎を心の師と仰ぐ縁で県人会に入会された。既に秋田へは何回も足を運んでいる。秋田県民会館のそばにあった東海林太郎の胸像の前で、また秋田市土崎港にある東海林太郎の菩提寺・西船寺の墓前でも歌を披露している。直立不動像の除幕式にも駆け付けた。11月12日、午後2時から、福岡市中央区天神のアクロス福岡1階の円形ホールで6回目のコンサートを開いた。

およそ100人収容のホールは、7割ほど埋まる。遠くは沖縄県や三重県から泊りがけでファンが訪れ、「シンジー！」と、時節柄、控えめに声を掛ける。シンジーは、コンサートの中で少し体調を崩していると話したが、力強く、時に柔らかく、やさしく、歌い上げた。ファンも最高齢91歳。オリジナル曲で秋田を歌った「ケヤキ・明日なろ・旭川」や東海林太郎、タンゴの名曲「母に捧げる歌」など昭和はやり歌23曲を2時間に亘って絶唱された。

島義勇入北記



島義勇入北記は、2021年3月、佐賀県立佐賀城本丸歴史館から出版された。島義勇（しま・よしたけ）は、1822年（文政5年）佐賀藩士の生まれ、佐賀七賢人の一人。佐賀の乱で首謀者とされ、1874年（明治7年）刑死した。52歳だった。入北記は、北海道開拓判官（開拓の責任者）としての記録が中心だが、この中で、初代秋田県権令（ごんれい＝現在の知事に当たる）、「島義勇伺書（上申書）」を紹介している。

島は、着任間もなく八郎潟を視察し、潟を掘り下げて港湾を開港したいと考えた。計画は浚渫用蒸気船や外国人技師を採用するなど大掛かりなもので、予算は16万円（現在の貨幣価値にして200億円以上）の内容だった。これを財政の乏しい佐竹藩ではなく、明治政府に訴えた。しかし、長州出身の井上馨・大蔵大輔（副大臣）と論争の末、6月24日に免官になった。秋田県権令としては、僅か6か月の任だった。

秋田に着任する前北海道で開拓判官として働いたのも7カ月。ここでも明治政府と対立して任を解かれている。しかし、島は、1856年（安政3年）、佐賀藩主・鍋島直正公から蝦夷地調査の命を受け、ほぼ1年かけて北海道内から樺太まで踏査していた。島が残した開拓の志は、現在でも北海道・札幌の人々の心に「判官さま」と刻まれている。八郎潟は、その後、大正、昭和と3回に亘る検討を経て、1969年（昭和52年3月）、850億円以上の費用をかけて干拓事業が完成した。島は権令着任の折に和歌を詠んでいる。「天津日の　光をかざし秋田なる蒼人草（あおひとくさ）をやすめそだてん」

歌人・長塚節（ながつか　たかし）と福岡、秋田



長塚節は、1879年（明治12年）、茨城県岡田郡国生村（こっしょうむら）、現在の常総市で生まれました。父親は県会議員も務める豪農で、名前の節は竹の節のように高くあれと両親が願いをこめました。わずか3歳で百人一首を覚えるなど神童と呼ばれましたが、病弱で地元の旧制中学を中退します。療養先で俳人・歌人の正岡子規を知り、21歳の時、子規が主宰する短歌会に参加するようになりました。しかし、32歳になって当時不治の病とされていた喉頭結核と診断されます。結婚も破談し、夏目漱石の紹介状を持って治療のため九州帝国大学医科大学耳鼻咽喉科の久保猪之吉教授を訪ねます。以来、三度も福岡を訪れ入院治療に励みましたが、1915年（大正4年）2月3日、37歳の短い生涯を福岡の地で閉じました。

長塚節の代表作は、長編小説「土」です。この小説が出版された際、装幀（表紙デザイン）をしたのが秋田県角館町出身の日本画家で歌人でもあった平福百穂（ひらふく・ひゃくすい）です。百穂は、歌人・小説家の伊藤佐千夫との交流から長塚節を知り、長塚節や佐千夫と共に筑波山に登り、長塚節の自宅に泊まったりします。小説「土」は、節の故郷に住む人々をモデルに貧しい農村を描いて東京朝日新聞に151回にわたり連載されました。推薦したのも漱石で、序文で漱石は「面白いから読めといふのではない。苦しいから読めといふのだと告げたい」と評しています。長塚節の最後の歌集となった「鍼（はり）の如く」には、231首の歌が収録されています。なかでも「白銀の（しろがね）の鍼（はり）打つごとき　きりぎりす　幾夜はへなば　涼しかるらん」は秀歌として知られています。節が最後の刻（とき）を迎えた医院（現在の九州大学医学部付属病院）の敷地内に歌碑があります。百穂と節は、往復120通を超える手紙、ハガキを交わしています。百穂は、節が亡くなる寸前の1月14日、病室に宛て、「初花のひらけ　はじむる梢より　そばへて風のわたるなる哉、、、、。」と手紙を認めた。尤も、節が元気な頃、百穂の短歌への批評は手厳しかった。

福岡市総合図書館では2022年3月27日まで、冴えの人＝歌人・長塚節の展示が行われています。長塚節は「あらゆる芸術は、それが秀抜なるためには冴えなくてはならぬ。」と考えていました。長塚は、生涯にわたり、歌における「冴え」を求め続けた歌人でした。

カリスマ駅長、みちのく夢プラザへ



「道の駅むなかた」初代駅長からヘッドハンティングされ、今年5月まで「道の駅オガーレ」の初代駅長を務めた、カリスマ駅長、山崎宏幸さんが、12月から福岡市中央区天神の北東北（秋田・青森・岩手）3県合同アンテナショップ、みちのく夢プラザで集客アドバイザーを始めました。

山崎さんは、オガーレの仕事が終わって、今年6月、オガーレの看板犬「つばき」（雌2歳）と車で3日間かけて秋田から故郷の福岡県宗像市に戻っていました。「つばき」は暑さに弱く、日中は殆どエアコンの効いた室内にいましたが、11月に入ってようやく、エアコンともお別れです。山崎さんも、次の仕事を探していましたが、「むなかた」を直売部門で九州一の駅に育て「オガーレ」も開業から3年で黒字化した腕を見込まれ、「みちのく夢プラザ」のテコ入れです。男鹿の仕事仲間に秋田の農水産物の情報や埋もれた商品などを発信し秋田と九州のパイプ役を目指します。

男鹿線と九州で走る電池電車は兄弟


JR秋田駅のACCUM

2017年3月、JR男鹿線で新型交流電池電車ACCUM（アキュム）が走り始めた。交流電化区間では走行しながら電池に充電し、電化されていない男鹿駅には充電所が備わる。EV-E801系と呼ばれるアキュムは山口県下松市の日立製作所笠戸事業所で12両製造された。塗装は「ナマハゲ」のイメージ。

実はアキュムには兄がいる。男鹿線より半年早く2016年10月から、JR若松線、福北ゆたか線などで走行しているDENCHA（デンチャ）だ。水戸岡鋭治さんがデザインしたバッテリーハイブリット交流電車。こちらはBEC819系と呼ばれ同じ日立製作所で12両製造された。兄のデンチャは、非電化区間の狭いトンネルを走るためパンタグラフ部の天井を低くしている。第60回ブルーリボン賞（鉄道友の会）を受賞した。一方、弟のアキュムは、雪国用に耐寒耐雪仕様のカスタマイズを施した。兄弟ともに、コロナ対策で、ドアの開閉を乗客でなく、運転士がしている。

家電なしの単身赴任

昨年度から北東北三県福岡合同事務所に赴任してまいりました小野です。福岡の前の勤務先が名古屋事務所で単身赴任生活4年目を迎えたところですが、私に限らず遠隔地への人事異動で必ず問題になるのが引っ越しです。特に年度末の繁忙期は業者の確保や高騰する費用が大きな問題となりますが、私は2度の引っ越しを数万円程度で乗り切りましたので、その秘訣というか心構えを少し披露させて頂きます。

まあ結論は「いずれ秋田に戻る際に持って帰れない物を増やさない」これに尽きます。名古屋への赴任時は最低限の着替えと身の回り品を宅配便で送り、布団やカーテン等は通販で引っ越し先へ届くよう手配、家具家電も名古屋の2年間はTV冷蔵庫洗濯機無しで過ごしました。現在も冷蔵庫はリサイクルショップで用立てて、秋田に戻る際に処分する前提です。他にも書籍は電子書籍、音楽も映画もネット配信利用と物理的に残るモノを極力購入しない生活を続けています。かと言って特段ミニマリストを標榜している訳では無く、福岡や名古屋という大都会では近隣にスーパーやコンビニ・コインランドリー等が充実している物件を容易く探し出せ、「家電が無くとも何とかなる」環境であるのが大きいですね。これが秋田市以外の地域振興局に単身赴任ではなかなか困難だったでしょう。コロナ禍の中、なかなか外に出て行けない期間が続きますが、そのような感じで日々を恙なく過ごしているところです。（小野貴久）

小池敦子さん、石垣島の松田信太郎さん方へ



10月10日午前、松田さんのお宅を訪問しました。ご自宅の一部で民宿を経営されています。 写真は、松田さんと小池さん、小池さんのご主人。もう一枚は、松田さんと夫人の千秋さん、それにご近所の金田雄司さんです。フサキビーチが目の前という人気のロケーション。お庭でBBQをしたらとっても楽しい休日が過ごせそうです。松田さんは全国を転勤し、勤務地と石垣を行ったり来たりで通年営業が難しく、これから本格的にという頃になってコロナが始まり休業中でしたが、11月中旬から営業を再開しました。Airbnbのサイトで石垣島、小さな宿「ふわっと」で検索してみて下さい。松田さんは、今年4月福岡市から石垣島に転居し、定年後の再任用、公務員として勤務されています。

福圓あゆみさん、故郷へ



約4年ぶりの秋田でした。コロナ禍の中ではありましたが、父と久しぶりに巡ってみました。①大館能代空港着～大館の秋田犬の里、②道の駅二ツ井～ババヘラアイスや馬肉ラーメンが名物、③寒風山～雲昌寺のアジサイ（花の背景に日本海が綺麗に見える）～入道崎（お土産屋さんは全て閉まってましたね）④男鹿温泉郷～石焼料理や鯛づくし、しょっつる焼きそばも名物！道の駅おがオガーレ、わかみのメロン、ズワイガニ、なまはげサイダー、醤油ソフトなどが人気！

秋田宿泊券を父が購入していたので、たまたま行ったんですが、県民は割引もあり更に2000円のクーポンも付いていましたよ！いつもと違った場所に行けて私自身も新鮮でした。でも今年の秋田の夏は暑かったです。

ハワイ島でコーヒー園



主人がコーヒー農園をやり始め、手伝っております。ご存知のようにコナコーヒーは高品質で世界で愛飲されているので自分たちの楽しみで作ることにしました。日系人知人が誰も世話をしなくなったコーヒー園を貸してくれ、今は荒れている農園の整理、それでも今から2、3ヶ月は収穫の忙しい時期です。（大坪洋子）

各県人会から



熊本

長谷川忠志さん、熊本秋田県人会はコロナ禍で何もできずにいます。来年こそ何か計画をと考えている今日この頃です。

沖縄

木村昭男さん、沖縄県が大勢の会食を避けて欲しいと言っています。前の会長とも相談して1月の新年会は、中止することとなりました。毎月第3土曜日の会合も2020年11月から控えています。

福岡

9月に会員132人に近況を尋ねる往復ハガキを出し、メールも含めて58人から返事を頂きました。コロナの心配が残っていますが、少しずつ慎重に秋田への帰省なども始めているのが、分かります。新会員との顔合わせも出来ていません。1月の新年会も無理だと思います。

募集

会報へのご意見、ご感想、投稿をお願い致します。
宛先は、福岡・秋田県人会、中村靖、
メールアドレス：o-nakamura@mms.bbiq.jp
郵送の宛先　：〒819-0013、福岡市西区愛宕浜2－3－11－1406

